

平成 25 年 第 3 回恵那市総合計画推進市民委員会

日時：平成 26 年 3 月 7 日（金）

午後 1 時 30 分～

場所：消防防災センター研修室

-
- 1 委嘱書の交付
 - 2 会長あいさつ
 - 3 市長あいさつ
 - 4 会議の公開、会議録の公表について（確認）
 - 5 議事
 - (1) 提言内容への対応状況について
 - (2) 平成 26 年度主要事業について
 - (3) 平成 25 年度市民意識調査結果報告について
 - (4) 次期総合計画の策定スケジュールについて
 - 6 その他
 - 7 市長お礼のあいさつ
-

欠席者 野田光子 原田弘子 丸山朝夫 宮地政臣 山田基 河原三次

1 委嘱書の交付（委嘱委員欠席のため省略）

■事務局（進行） 皆様、こんにちは。今日の恵那山を見るとまだまだ白いが、午前中は春を感じさせる天候だった。午後からはこんな状況だ。本日は市内8中学校で卒業式が行われた。463人が卒業した。中学生が夢と希望を持って巣立ちをした。年度末のお忙しい中ご出席ありがとうございます。

2 会長あいさつ

■事務局（進行） 有本会長からあいさつをいただく。

■有本会長 会長の岐阜大学地域科学部の有本です。こういう重要な会議には進行係である議長と事務局との間で下準備をして臨んでいるが、今日は年度末の締め会議で議題が4つある。それぞれについて事務局から分かりやすくコンパクトな説明をしていただく時間を取ると、討議の時間が長いもので1項目10分、短いのは5分になる。遠方の人もあるのである程度の時間で終了することを考えると、短くなる。了解してほしい。

この後、議題に入ったら、私の個人的な意見を述べる時間はほとんどないので先に言う。お手元の市民意識調査結果の概要版の28ページを見てほしい。上の方に、市民の意見を市政に反映するために何が必要ですかという、2つまで回答する設問への答えがある。市民参加で計画作りや設計を行える機会を充実するというのが、26%。4つある大きな回答の中の一つに入っている。これは総合計画を進行管理するこの市民委員会そのものを指すような項目に当たる。年3回、4回会議をやったとしても、場合によれば1議題で5分、10分しか議論する時間がないという現状だということを含んでいただき、4つの回答の下の方の、下から4つ目、市長や議員が多く市民と対話集会する機会を充実するという項目がある。市長や議員、頭数では職員の数の方が圧倒的に多いので、私が思うのは、普段、市長、議員、職員が市民と対話交流することなら、5分、10分以上の時間を持てる可能性が高い。そういう形で日頃から、市政を市民に広げ、市民の意見を市政に反映するために、トップである市長や議員だけでなく、職員やここにいるそうそうたる顔ぶれの皆さんが日常努力していただき、この会議の時間の制約を突破する努力をしてくれるとより充実し発展していく。8年もこの会議をやりながら今こんなことを言わなければいけないのは残念だ。これからも皆さんは頑張って、行政と市民の協働関係の強化発展のために尽力してほしい。

3 市長あいさつ

■事務局（進行） 可知市長からごあいさつする。

■市長 年度末のお忙しい中ご出席ありがとうございます。

合併して10年を迎える。10月11日、記念式典を開催する。よろしくお願ひしたい。

今日は平成26年度の主要事業、予算を提案する。報告を2件する。市民意識調査の結果も説明する。心配するのは、年々回答率が減っていることだ。一番初めの平成17年6月の

資料がここにあるが、このときは67.5%だった。今は55.0%。回収率が落ちている。反省点として考えないといけない。

もう一点。総合計画の柱である産業の活性化、雇用の拡大。平成22年7月に第3期テクノパークを作った。その後企業誘致をしていたが、第3期は2つの区画が完売した。1つの区画は桜宮化学株式会社で2.5ha。工場がもうできて操業にかかるばかりになっている。もう一つは、三菱電機の伊丹製作所が工場を作る。2月28日に起工式に私も行った。全体で4.7haあり、工場が約2万㎡、今年の11月に完成し、工場を来年4月に開始する。投資額は約75億。稼働時期の従業員数100名。恵那市にとってはトップ企業ということで期待できる。

話を聞くと、恵那市は立地条件がいいという判断で立地するということだ。企業はすごくスピード感を持っている。1月15日に協定した時にはすでにあらゆる段取りをして着工できる形になっている。11月に完成、来年の4月に稼働するというので、スピード感を持っているので我々についてはついていけないといけない。

今日の午前中は中学校の卒業式があり、私は恵那西中学校に行った。3月1日には恵那農高にも行った。今日の卒業式を見て、しっかりした教育がされていると思った。一人一人がしっかりした態度で最後には卒業生全員で合唱して応えてくれた。涙が出るほどだった。恵那市の教育はしっかりやられていると自信を持った。

今日は時間がかかるかもしれないが、いろいろな意見を賜りたい。

4 会議の公開、会議録の公表について（確認）

■事務局（進行） 本日の会議は公開、会議録は公表する。御了承いただきたい。

5 議事

(1) 各部会の報告（提言）について

■有本会長 議事(1)について事務局から説明をお願いします。

[事務局による説明]

■有本会長 委員から質問、意見があれば積極的に発言してほしい。

■委員 歴史的風致維持向上事業で、中山道大井宿の対応が出ている。明治天皇行在所が、昭和10年ぐらいから法人を持っていたが、その内容が休眠状態になっている。法人の見直しの時期に来ており、県の社会教育課は現状のままいけば法人として認められないと言っている。住民の運営だけでは対応できないので、法人が認められなかった以降の状況と、持ち主と行政サイドでやりとりがあったならどうなっているか聞きたい。

それから、最後のほうで、地域自治区の充実という課題が出ている。この際自治区制度について専門的に、講師もみえるので、職員研修で十分熟知した上で、地域協議会との対応をしていただく方が、今後新しい総合計画の地区計画を含めても、捉え方が充実していくのではないかと。もしその辺の行政サイドの認識があれば聞きたい。

■有本会長 1番目は短めに、2つ目は大事なので丁寧に答弁してほしい。

■建設部長 3ページの2段目、都市公園などの整備の中に歴史的風致維持向上計画の重点地区として大井地区をとすることを考えている。これは、岩村でやった事業と同じように、地域でいろいろな考えを出し合っただけで、社会資本相互整備交付金を次年度以降国の採択を得て補助事業にあてて進めていこうということだ。今年度から地域の皆様方とワークショップを続けながらどうやっていくか考える。その中に行在所もあるし林家もある。これをどう活用していくか考えている。行在所の所有者のことは、恵那市としてはそこに具体的に入っている状況ではない。

■有本会長 自治組織について。企画部長。

■企画部長 昨日地域協議会と自治連合会の会議があつて、委員の言われるような話があつた。地域協議会は平成17年から始まって合併と同様10年経とうとしている。地域協議会の在り方が住民に周知されていない。地域協議会や自治連は何度も会議をして意見交換をしたので十分分かってきたが、地域や職員に周知されていないのではないかといいながら、昨日上矢作の会長から話があつた。地域にとって地域協議会が認められていない理由は何か、認められるのはどうしたらいいか。地域協議会が言ったことが実現する、地域協議会に権限があるという認識が住民に感じられていない。そこに尽きるという話だった。地域協議会は市に意見を言えるという権能があるが、いろいろな意見を言っても行政で全部を聞けないこともあり、地域協議会に権限があるという意識を住民が持てないでいる。委員が言った地域計画というのは、4月から新しい地域計画の策定に携わる。13地域自治区の計画を地域協議会に作ってもらおうとしている。それが総合計画の根幹になるという意識を持っていただく、そういうことを進めていただく中で、地域協議会の認識を住民に持ってもらおうようにしたい。

もう一点、自治連や地域協議会の方や関係者の方はだいぶ分かってきたが、肝心の職員が分かっていない。勉強しているつもりだが、まだ不十分だということなので、職員研修は総務部と協議してしっかり進める。住民と職員がしっかり地域自治区を理解しないと次の10年の総合計画に進めない。

■有本会長 これだけで30分はかかる議題だ。委員以外の地域協議会の会長、副会長にうまくまとめてもらいたい。

■三宅副会長 同じ地域協議会の会長として同じ思いだ。私どもはもちろんだが、職員に地域自治区制度や行政サイドのノウハウを十分に身に付けていただきたいという思いはある。が、それより、恵那市に対する情熱、自分たちがこの市を背負っていくという意識を職員に持っていただくことが大事だ。それが感じられれば、解決していけることもあると思う。私も串原にいて、どの職員が串原に赴任してくるかによって串原がすごく盛り上がりたり、そうでなかったりということが多分にある。市の職員が地域の人や委員と

協力して、何としても市を引っ張っていくという意識をもって対応してくれることを期待する。

■有本会長 もう1人ぐらい、発言してほしい。

では、それなりにしっかり対応していただいております、それをさらに進めてもらうということで、了解していただけたということでいいか。

では、(2)について、パワーポイントで事務局から説明してもらおう。

[事務局から資料に基づき説明]

■有本会長 ありがとうございます。それでは、質疑の時間も少ないが、ぜひ聞きたいことがあれば発言してほしい。

■委員 安全なまちという施策の中で、2月は2回雪害があった。私たちも最近あのような大雪は経験していなかったが、重い雪で樋や簡易な車庫が潰れたという話がある。今回の雪害について、重機など借り上げて行った場合は、上限が決まる中で対応する、しかも今年度限りという話だ。大井町にはそういう例がなかったが、災害となれば、風水害、雪害という課題があり、国・県道はそれなりの管理がされているが、市道に支障をきたしている事例もある。総体的な災害に対応できる予算措置をしておくべきではないか。

■有本会長 関連した質問があれば。ハザードマップや大地震の話もあった。

■総務部長 大雪に対する総合的な予算措置について。災害は毎年ある程度あるが突然起こるので、あらかじめ予算確保はしていない。が、大雪では、融雪剤の経費は既存予算である程度対応できている。ただ、今回の、除雪の経費や倒木処理、重機借り上げの場合は、少しガソリン代と損料を出ささせていただくことを急ぎ建設部で盛り込んだので、そういう経費は予算化してなかったが、予備費が25年度3千万円予算化してあったので、当面それで対応した。だんだん雪害の全貌が分かってきた。これについてはまだ正式に市議会に出していないが、何とか今議会中に補正で対応したい。

■委員 市民意識調査の24年度の冊子を読んだ。自由記述というところを全部読んで、すごいと思った。この冊子を職員はどういう利用をしているのか。自由記述に書いてあることにはすべて対処済みなのか。市民の目は細かいところに行く。自分で記述したことが直っていたと気付いたら満足感がある。どう利用しているか聞きたい。ここにあるのは貴重な意見だ。25年度版もこれが出るのだと思う。提言、部会も参加していてもよく分からなかったが、部会についての返事をいただき、前向きで、私が思ったことを言ったのに対して回答してもらい、嬉しく思っている。

女性としては産婦人科の開設は切実だし、本当にできるのか、医者の確保ができるのかという不安は誰もが持っていると思う。産婦人科を作るということは医者の人数を確保しないとできない。その見通しが少し甘いのではないか。何人の医者を確保して、非常勤でなく正規で、長くやってくれる人でないと困るので、もう少し詳しく人数の配置も聞きた

い。

学童保育の設置については、嬉しい回答で、未設置学区があると聞いたが、現在 15 学区のうち 10 学区が、季節を含めてある。それを全学校でやるというのだが、現実的に、どういふ働きかけを親にして、場所をどう確保するかという動きをしているのか。来年には 15 学区できていると思いたい。具体的な作業、経過について聞かせてほしい。

観光について。初めて明知鉄道に乗った。明知鉄道を学習するという市民講座で。行きは専務から明知鉄道の歴史を聞き、帰りは大学の先生が観光について講義をしてくれてとても良かった。SLを見た。これをどうするのかと思った。動かすには何億というお金がかかると明知鉄道の人が言っていた。噂では坂本のリニア駅まで動かすという。本当にそんなお金があるのか。

奨学金について。医者や看護師を志す大学生には奨学金を出すということだが、安城市では高校生に奨学金を出す。それも貸与でなく給付。高校の授業料も所得制限ができる。学校徴収金というのがあり毎月 1 万円ぐらいかかる。検定料とか P T A とか。授業料が無料でもそれはかかる。だから、生活が厳しい母子家庭だったりすると大変なので、高校生への奨学金を検討してほしい。いろいろ調べたら中津川市にはあった。貸与だが。一定のお金を、通学補助を含めて出していた。瑞浪市は月 1 万円の給付。考えてほしい。

■有本会長 市民意識調査結果の自由記入欄の活用については次の議題のところの説明で少し入れてもらう。高校生の貸与、SLも重要だが、代表して産婦人科の設立状況について詳しく説明してもらい、ほかは推して知るべしとしてこの場は納めてもらいたい。

■医療管理部長 ハード面では、現在第 1 期の造成工事を進めている。恵那病院の東側の木を切り造成を始めている。26 年から 27 年に向け本格的に造成工事し、本体工事を行う。28 年度開設に向けて進めている。産婦人科は産科医師 3 名を予定している。加えて、小児科の増員を 2 名。助産師は常勤、非常勤含めて 10 名。常勤 8 名、非常勤 2 名。そういう面で、医師、助産師を含めた医療スタッフが確保できる。昨年 7 月から助産師による助産師外来の一部を始めた。赤ちゃんを育てるための相談業務や、産まれたばかりの母親の乳房マッサージを始めている。今年 1 月には胎児のスクリーニング、これはエコーを使った 20 ～30 週の赤ちゃんの健診で、長良医療センターとタイアップして行っている。産科の先生がみえればすぐに実施できるような条件整備を今の段階から進めようと活動している。助産師は昨年 2 名、今年 1 月から 1 名増加し現在 3 名が活動している。26 年度には赤ちゃん訪問や、たまご学級を、健康推進課とのタイアップによって一歩ずつ、産科業務ができるように活動している。

■有本会長 主要事業についてはこれで了解していただいたということでもいいか。

[休 憩]

■有本会長 再開する。(3) について、事務局から説明を受ける。

[事務局から資料に基づき説明]

■有本会長 ぜひ聞きたいということがあれば。

■委員 1ページ目の回答者についてというところを見ると、70歳以上、60歳以上で53.9%。このアンケートの結果は圧倒的に高齢者にシフトしたものと見るべきだ。無作為抽出で選んだ2,500人というのは、恵那市の人口に比例しているとは思いますが、私は前回の調査の結果をエクセルでいただいたのを分析したら、回答率が加齢に従ってどんどん高くなる。逆に言うと、若年者の回答率が非常に低い。特に、これから若者に住みやすい町にするという話がある場合に、何らかデータに色を加えないと、若者、特に40代より若い人の意見がまるで反映されない結果に終わる。それが1点。この分析手法は昨年度と全く同じで、経年変化を見るにはいいが、これから別の視点で、若年層が何を考えているか明確に分かるような分析をしてほしい。

もう一つ、愚痴っぽいが、市民参加に関してという話があったが、アンケートでもあまり市民参加が芳しくないということだ。確かにそうだが、80年代ぐらいに市民参加という言葉が出てきた。これは熊本の当時水俣市の職員だった人の話だが、市民参加という言葉聞いて非常に違和感を感じたと。そもそも行政参加じゃないかと。今日の話はすべてそうだが、行政が中心になって何かをやるという基本的なスタンスが全く変わっていない。本来は市民が何かをやってそれに対して行政が参加していくというスタンスが、特に市役所の中にないと、おそらく市民参加は進まないと思う。それに関して何らかの方策があるのか聞きたい。

■有本会長 すぐ事務局に振るといつものパターンになると思うので、委員から今の意見に対して、意見を出してほしい。複数の方から意見をいただきたい。若い世代は何を求めているのか、行政と市民の関係についてどう考えているのか。

■委員 このアンケートはずっとこういう方法で続けるのか。分析をすると若年層が何を求めているのかこのデータから明らかになるのか。半分以上が高齢者だ。分析の方法によって、若い人が何を求めているかこのあるデータの中から分析できるのか。

■委員 (できる。)

■委員 検体として2,500人というのは適正なのか。

■委員 (適正。)

■委員 アンケートの取り方を、若い人だけにするのは問題があるのか。

■委員 年齢に従ってというか、若年層と高齢層でかなり開きのある項目がある。すべての世代を同じように考えているという項目はそれでいいと思うが、そうでない項目が結構ある。そういうあたりをどう配慮するかが大きな問題。せっかくこれだけの人が答えているのだから、このアンケートの分析手法はこれでいいが、プラスアルファで、特に若年層が何を求めているかとか、若年層と高齢者層でどういうマインドの違いがあるか、そうい

うことも出てくる。その分析もしてほしい。

■有本会長 統計学的には、1,500集めるというのはすごい仕事で、集まった集団の答えがきれいに見えているという言い方ができる。委員が言われるのは、若い世代でも答えてくれない人がたくさんいるので、その人たちの状態、考えをしっかりとつかむための工夫をしなきゃだめだということと、答えてくれた人もいるので、これに別添で20代、30代の回答を別に集計して比較すると、高齢層と若年層の違いが明確に見える部分が出てくる。見えた部分についてどういう対策が必要になるかイメージすると、アンケート調査の概略は完結する、ということでもいいか。そういう具合に、もうひと手間かけて、次の恵那市を担う若い人、アンケートに答えていない人も含めた市民の意向をしっかりとつかむために努力してほしいということをおっしゃりたかったと思うし、私もそう思う。データはあるので、職員が再集計すればできると思う。時間はかかるかもしれないが私でもできる。次の10年計画を作るときに、若い世代の考え方と、その考えしか出てこない背景の、全体の若い世代の意向を踏まえて作ってほしい。

■事務局 今、本編の取りまとめを行っている。前回年代別の分析が非常に重要だと御意見をいただいた。本編では、概要版で20ページに示しているマトリックス図、これがこの調査で一番重要な部分で、重点課題が分かる表なので、年代別を本編では作る。次回の委員会で配る。

■有本会長 それでよいか。では、(3)を終わる。(4)について、事務局から説明をもらう。

[事務局から資料に基づき説明]

■有本会長 質問があれば。

■委員 この会自体が審議会になるということか。

■事務局 この話は、推進市民委員会の第1回のときにそういう話をさせていただき、3年間の任期があるという説明をした。

■委員 そうすると任期は3年間か。

■事務局 任期は3年間だが、審議会という条例設置のものに代わるので、改めて審議会委員として委嘱する。

■委員 1つ心配しているのは、私も、市民協会の会長ということでここに出ているが、多くの方が何らかの組織の長として出ていると思う。その任期が1年の場合も2年の場合もある。継続して同じ人が審議をしていかないとどんどん途切れてしまう可能性がある。それはどう考えたらいいか。

■事務局 基本的には、団体の都合にもよるが、同じ人が審議会に継続して入ってもらい、地域・団体から選出してもらい、審議会として最後の答申まで行っていただくのがこちらのお願いだ。ただ、団体によってはそれが不都合な場合もあるので、この場を借りて、同

じ方で答申まで審議してほしいと言いたい。団体の代表のほうでそういう選出をしてほしい。

■有本会長 ほかに意見、質問はないか。

■委員 2年だと思って参加しているが3年なのか。

■事務局 公募も、最初の公募の要項として3年ということで、途中から審議会に代わって、改めてそこから2年間ということで、合わせて3年というお願いを、1回目の推進市民委員会で行っている。

■委員 13地区の地域自治体の地域計画はそれぞれの地域協議会の裁量でという部分で決めればいいのか。

■事務局 今年の5月頃、市長から13地域の各地域協議会へ地域計画の策定について諮問する。作り方は、地域協議会の中で委員が意見交換をしながら作るが、その事務局は各振興事務所の長が担っているので、そこが連携役になり、本庁各担当課とも協議をしながら作り上げていきたい。

■有本会長 私のイメージでは、審議会ができたなら、その審議会のメンバーがそのまま市民委員会と名前を変えて、計画の進行をチェックする委員会として機能してきた。今度次の10年計画を作る必要があるのに、2年かけてやるのに、来年度は市民委員会という名前を使わず、でも進行管理の機能を持たせた審議会として2年間やるということだ。それで、任期のずれや、充て職の人について、元会長で出られるのか出られないのかということは、また個別にその人に続けて出してもらったほうがいいのかどうかで判断できるのかどうか明確にしてもらいたい。完全に充て職でやるということなのか、それともある人がプロジェクトチームの長になった場合は、その長が代わってしまうということがあるので、そのあたりの運用をどうイメージするのか。そういう質問だと思う。

■事務局 今、市民委員会は各団体から出ているが、それは必ずしも会長とか、長ということではなく、その会が推薦した、会の代表者ということなので、会長だったり副会長だったり、一般的な委員であったり、そういうことでの代表だ。同じ人で審議会に参加してほしいが、その団体によって不都合だということなら相談いただきたい。

■有本会長 では、おおよその進行スケジュールの計画については了解ということで、個別には事務局と相談して円滑に次の計画が進められるよう、市民主体の総合計画ができるように、頑張っていくということをお願いしたい。

(4) はこれでよいか。異議がないので了解されたこととする。

その他、何か皆さんから議題があれば。なければこれで議事が終わるので副会長から一言いただく。

■三宅副会長 委員の皆様にはそれぞれ大変忙しい中ご協力いただきありがとうございます。総合計画の進捗を見ながら提言もまとめていただき、それに対する現在の25年度、

また次の26年度の予算の説明を聞いた。ただ、最も重要なのは次の総合計画の審議委員としてご検討いただくことになる。私、少し前に福島に行ってきた。原発のそばの楢葉町、大熊町の皆さんとお会いして話をしてきた。振り返って恵那市を考えると、津波もない、地震もない、原発のそばでもないという、極めて条件のいい中で、次の総合計画を練ることになる。まして、全国に同じような、高齢化を抱えて将来に不安を抱く地方都市があるが、ここはリニアが来るという全国に比べれば数少ないチャンスを与えられている。それを生かせるか生かせないか、逆にマイナスに作用するか、それは次の総合計画いかににかかわる部分が多いと思うので、よりよい総合計画を練り上げないといけない。皆さんも職員も頑張っている恵那市を目指したい。

■有本会長 では、議事を終了する。ありがとうございました。

6 その他

■事務局（進行） その他として1件報告する。有本会長がこの3月末で岐阜大学の教授を退官する。恵那市では合併前の平成14年から旧市の総合計画の進行管理から携わっていただき、平成16年の市町村合併、その後の新総合計画の策定、振興管理と、長きにわたってご指導いただいていた。大学の退官と合わせて、各委員も退任されるということで、恵那市でもこの会長の職務を退任されることになった。会長から一言、ごあいさつを賜りたい。

■有本会長 私事で恐縮だ。65歳定年という、定年を選べる仕組みになった。昔は63歳定年だったが。家内に相談したらできるだけ稼げと言われて2年延ばした。岐阜大学に36年いた。この36年は、私は農業経済で農村関係が主だったが、地域の皆さんに支えられて、自分の勉強や学生の卒論や修論を手助けし65歳定年を迎えることができたのは、本当に地域の皆さんのおかげだと、心からありがたく思っている。ありがとうございました。

7 市長お礼のあいさつ

■事務局（進行） 可知市長からお礼のあいさつをする。

■市長 有本先生、本当にありがとうございました。私が印象に残っているのは、恵那市の合併のとき、私もオブザーバーで出していただいたが、有本先生は顧問で、あの難しい合併協議をしっかりと支えていただいた。引き続き恵那市が発足して最も大切な総合計画進行管理もしっかりやっていただいた。まだまだ頑張っていたいただきたいが、退官されるということなので、心からお礼を申し上げたい。

市民意識調査をこのまま続けるのかという話があった。これは平成17年に始め、総合計画のまちづくりの一つの指針として考えていた。その結果を毎年やっていくことによって、行政の通信簿になると思っている。次期の総合計画の策定については、私の考えとしては、ぜひ若者の声をしっかり聴くようなことを考えたい。ということで総合計画策定のワーキング会議を100人という考え方もした。なるべく、今やっている中学生と語る会や、成人

者と語る会とか、そういうことも含めて、ぜひ若者と女性の声を大きく反映させていきたいと思っている。どういう形でこれをまとめていくかが大きな課題だ。一生懸命やりたい。引き続き皆様方にはお世話になる。よろしくお願いします。5月頃には新たに審議会を立ち上げ、皆さんに改めて委嘱し諮問する。今日はありがとうございました。

■事務局（進行） これで終了する。

〔 閉 会 〕